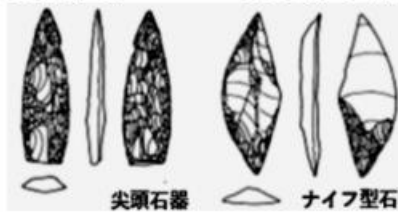


わがまち・ふるさと再発見!
 『流山のむかしを訪ねて』

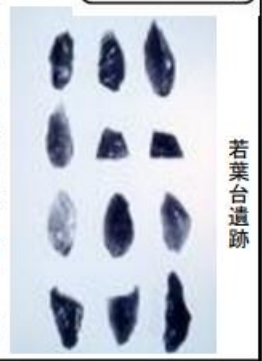
① 旧石器時代 寒冷化と食糧難
 案内役 田村哲三

流山に人が住み始めたのは今から約3万年前の旧石器時代からといわれています。

若葉台遺跡や西初石3丁目の桐ヶ谷新田遺跡など、3万年〜2万4千年前の地層からナイフ形石器や鎌が出土しました。この他、市内69か所の遺跡から2万点を超える石器が発掘され、旧石器人の痕跡がわかりました。住居跡が発見されていないため、どのような暮らしをしていたのかまではわかっていません。



寒冷期だった当時は、関東地方の年間平均気温は6度ほど、現在よりも約7度も低かったといわれています。これは現在の北海道に近い気温だったようです。海面は120mも低く、流山市域では、海は遠く、魚介類の漁労は不可能でした。また、寒冷期のため、樹木は針葉樹と落葉広葉樹が混ざり、木の実の採集も不足。木の実を食べる動物も少なく、狩猟の機会もあまりなかったと考えられます。春夏は山菜などの植物、秋は木の実の採集、冬は主に獣の狩猟をしていましたが、食料を得るのに大変不利な環境だったと思われます。旧石器人は獣や木の実を採集できる環



若葉台遺跡

境を求めて家族や親族で移動しながら生活し、ベースキャンプを張っては食料を獲得。取りつくすと新たな食料を求めて次のベースキャンプを張るとい生活だったと考えられ、確かな住居がなかったと解釈されています。当時の人々は寒冷化と食糧難の中、厳しい生活を強いられ、たことでしょうか。

生活の道具は石器で、石を加工してナイフや石斧、鎌、石槍などを作りました。石器というと狩猟用と思いがちですが、木を切る、木の皮や動物の皮をはく、皮をなめす、衣類を作るなど、生活全般に活用されています。ではその石はどこから入手したのでしょうか。千葉県北西部には山がないため、石を得るのは困難だったと思われる、おそらく茨城県、栃木県、群馬県、山々などから運び込まれたと考えられます。黒曜石など、伊豆諸島の神津島から入った形跡もあります。

想像を交えて旧石器時代のことを述べましたが、石器の出土から見ると、北部地区は市内で最も古い歴史があるということがわかります。写真類の出土は流山市立博物館

わがまち・ふるさと再発見!
 『流山のむかしを訪ねて』

② 縄文時代1 温暖化と縄文海進
 案内役 田村哲三

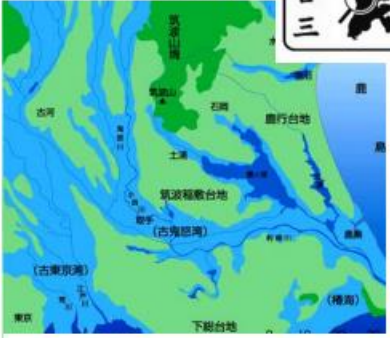
旧石器時代の次は縄文時代です。縄の文様を付けた土器が作られていたことから縄文時代と呼ばれ、今から約1万3千年前から2千3百年前までのことをいいます。流山市内では140か所ほどの遺跡が発見されており、今後の開発によってさらに増えると思われます。旧石器時代に比べ多く出土していることから、旧石器時代よりも多くの人々が住んでいたことがわかります。では縄文時代になると、どうして多くの人が住むようになったのでしょうか。そこには気候の変動が大きく影響しています。

今から約1万年前、地球は温暖化が進み、約6千年前にピークを迎えました。海水温が上昇すると海水が膨張し、また気温が上昇したことで水河や北極、南極の水も解けたことで、海面は今より5m(7mや3m説あり)も上昇していたと思われま

す。その結果、現在の東京湾は関東平野の奥深くに進みました。これを「縄文海進」と言います。その頃、現在の千葉県は、茨城県、栃木県、埼玉県、東京都と続き(半島)ではなく島でした。温暖化と海進は人々の生活にも大きな影響を与えました。

◆縄文時代の人々の生活
 野山は広葉樹林や照葉樹林に覆わ

【出典】
 霞ヶ浦環境科学センター



地図では千葉県が島であったことがわかる

◆地球温暖化と縄文海進
 地球の温暖化と海進によって、日本列島の人口分布にも変化が現れます。北海道を除く、日本列島の縄文人の人口は、ピーク時で26万人といわれます。その内、24万人(92%)が東日本に住んでいました。

◆縄文時代の人口
 関東地方だけでなく、世界遺産の三内丸山遺跡やストーンサークルなどのある東北北部も、遺跡や出土品から見て住みやすい環境にあったことが分かります。人口比ではまさに東高西低であったのです。

わがまち・ふるさと再発見!
「流山のむかしを訪ねて」

③ 縄文時代2
定住する縄文人

案内役 田村哲三



流山の地形図
(出典:流山市立博物館)

前号では、縄文時代は温暖化によって海面の上昇や樹木の変化があり、食料事情が好転したことを書きました。では、当時の流山市はどうであったのでしょうか。



市内にある140カ所ほどある縄文遺跡のほとんどが低地に接する台地の縁から発見されています。なぜこのような地に遺跡が集中しているのでしょうか。

市内には140カ所ほどの縄文遺跡が発掘されており、北部中学校の西側のあさぎが丘とその周辺の「中野久木谷頭遺跡」は、縄文中期(4500〜4400年前)の代表的な集落跡です。この地は、標高17m〜20mの舌状台地で、三方が低地(海)に面し、斜面からは湧き水が出ていました。前号で解説したように、このような土地は理想の住居地であり、まさに谷頭はそのようなところでした。

食料が常に確保できるようにと、旧石器人のように獲物を求めて移動する必要もありません。人々は食料や水の得やすい所に定住するようになり、食料を得るには大勢で協力する方が有利ですから、次第に集落をつくるようになりました。さらに、収穫した食料を煮炊きする器、保存するための壺なども必要になり、いろいろな土器を作りました。土器づくりはやがて埴輪や土偶などへ発展しました。

現在、市内の低地の標高は5m前後。火山灰や土砂の流入、埋め立てなどで嵩上げされているので、縄文時代はかなりの低地であったと思われまます。そこに約5mの海面上昇ですから、現在の低地部は水深の浅い海になっていました。流山市の低地部を示す図では、蜘蛛の巣のように台地部に入り込んでいるのが分かり、この部分がかつての海であったのです。これは海進によって台地部の軟弱地帯が削られ、また、低地部であったところが埋没して海になったのです。台地の奥は入江となり水深の浅い波の静かな海になり、ハマグリや巻貝などの貝や魚がとれました。また、台地部では広葉樹林などの樹木に置き換わったことで、クリやドングリなどの木の実が採れ、それを食べる獣の狩猟も容易になりました。海に向かう傾斜地には湧き水も出ますから、海と台地の接した所は絶好の住居地でした。このことか

集団で生活

すること、祭祀や信仰も生まれました。祭祀に使われたと思われる石棒なども発見されています。食べた貝の殻を捨てた場所が貝塚です。市内でも幾つかの大きな集落跡や貝塚が発見されています。次回では、それらの大集落跡についてご案内いたします。



石棒(江戸川台4丁目)

わがまち・ふるさと再発見!
「流山のむかしを訪ねて」

④ 縄文時代3
大集落・谷頭遺跡

案内役 田村哲三



調べると、当時食べられていた食料を知ることができます。当時の主食は、クルミ、ドングリ、栗などの木の実にたようです。

市内には140カ所ほどの縄文遺跡が発掘されており、北部中学校の西側のあさぎが丘とその周辺の「中野久木谷頭遺跡」は、縄文中期(4500〜4400年前)の代表的な集落跡です。この地は、標高17m〜20mの舌状台地で、三方が低地(海)に面し、斜面からは湧き水が出ていました。前号で解説したように、このような土地は理想の住居地であり、まさに谷頭はそのようなところでした。

谷頭遺跡からは、スガイ、マガキ、アサリ、ハマグリなどの貝類のほか、多くのカレイ類、クロダイ、マダイ、スズキ、ボラなどの魚類、爬虫類のウミガメ、クジラの椎骨も出土しました。水深の浅い入江に、クジラが来ることは考えにくいので、入江の外に出て漁労をしていたのかもしれない。このほか、鳥類ではガン、カモ、獣ではイノシシ、シカが約80%と多く、次いで、サル、野ウサギ、タヌキ、イヌなどが出土しています。

遺跡からは195軒の竪穴住居や1065基の貯蔵用、ゴミ捨て用の土坑(ク)、貝塚などが見つかり、大集落を形成していたことが分かりました。集落は中央に広場があり、それを取り囲むように多数の土坑群、さらにその外側に住居があり、このような大集落は、長い年月をかけてつくられたと考えられます。中央の広場は祭祀や共同作業場として利用されたのかもしれない。

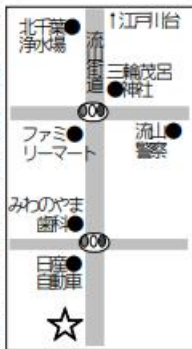
出土品には土器の他、石斧、石の鎌などの石器、魚を捕る網につける錘、ヒスイ製の珠、貝や獣骨製の装身具などもありました。

住居の中心には床を掘った炉や石で囲んだ炉があり、炉の周辺は、人々により踏み固められたらしく、他より固い地になっていました。また、土坑からは炭化したクルミが多く出土していて、食料貯蔵として用いられていたようです。人骨もあったことから、お墓として掘られた土坑もあったと考えられます。

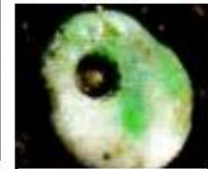


中野久木谷頭遺跡の出土分布図
出典 ふるさと流山のあゆみ

わがまち・ふるさと再発見!
 流山のむかしを訪ねて
 ⑤ 縄文時代 4
 ヒスイ・玉造りのムラ
 案内役 田村哲三



三輪野山2丁目の三輪野山4号公園は「三輪野山貝塚遺跡地」で、約4000年 約26000年前の貝塚や、住居跡が発見されました。東西120m・南北100mの大きな馬蹄形の貝塚で、5つの貝塚からなり、住居跡は、5軒、10軒などとまとまって発見されました。中には、60軒の大集落もありました。墓坑は210基あり、人骨も8体発掘されました。このほか、周辺では7つの遺跡が発掘されており、古くから人々が住んでいたことを証明しています。平安時代の住居跡もあったので、時代は変わっても三輪野山一帯は住みやすい環境であったようです。



加工する道具類が発見されたことから、ヒスイの玉造ムラが存在していたと考えられます。関東地方ではこれまでヒスイの玉造ムラは確認されていないため、初めて発見されたヒスイの玉造ムラとして貴重な存在です。ヒスイの原産地は新潟県糸魚川市の姫川周辺です。糸魚川と交易があったのでしようか。そのルートは山越えなのではしうか。青森県の山内丸山遺跡からもヒスイが出土しています。青森県では糸魚川と日本海ルートとして青森経由で海路、太平洋ルートに



三輪野山貝塚のヒスイ原石と緑色変成岩(右側)より流山にできます。ヒスイは遮光器土偶とともに、北東北との交流の可能性に迫る謎とロマンです。なお、市内の大規模貝塚には上新宿貝塚、上貝塚貝塚があります。次回解説いたします。

出土品は土器の他に、祭祀用の石棒や石斧、軽石製の漁網浮、独鈷石などの石器がありました。中でも珍しいのが遮光器土偶とヒスイ製の玉や勾玉です。遮光器土偶は東北地方で多く出土しているため、東北地方の影響を受けていたものと思われる。この遺跡の最も特徴的なのは、ヒスイの原石や玉、勾玉などの加工品、加工途中の未完成品、

写真出典：流山市立博物館

わがまち・ふるさと再発見!
 流山のむかしを訪ねて
 ⑥ 縄文時代 5
 貝塚
 案内役 田村哲三



縄文人が集団で生活していたことは前号で書きましたが、人々は集団生活に好条件の地に永く住み続けました。その結果、食べた貝殻や魚の骨、動物の骨などを同じ場所に捨て、その貝殻が積み積もってできたものが貝塚です。それらの出土品から、当時の人々の食べ物が分かります。また、人骨の出土から遺体も埋められた可能性もあります。

通常、酸性土壌の関東ローム層(赤土)では、動物の骨や木の実、衣類などは酸化して土になってしまいますが、貝塚では永年積み上げられた貝層に守られ、魚や動物の骨が残ったとされています。貝塚は次第に大きくなり、馬のヒズメの形になったものを「馬蹄形」と呼びます。

出土し、後から捨てられたとみられる北側は、汽水産のヤマトシジミの出土が主体で、海面が後退し始めた縄文晩期のものです。動物の骨ではシカ、イノシシ、サル、タヌキ、キツネ、オオカミ、アナグマなどの哺乳類。鳥類ではガン、カモなど、魚類ではサメ、ホラ、スズキ、クロダイなども出土し、クルマミヤトチの実も出土しました。この他、土器や石器もありました。人骨や土製の耳飾りなどの装身具、南海産のオオツタノハ貝の貝輪も出土したことから、埋葬地でもあったと考えられます。南海産の貝製品はどのような経路で

① 上新宿貝塚
 和田堀りの源流に近い上新宿の地では、畑や林の中に貝殻を見ることが出来ます。ここが「上新宿貝塚」です。南北約170m、東西約12mと推定される市内最大の貝塚で、馬蹄形をしています。

② 上貝塚貝塚
 流山街道沿いの東側、上貝塚の畑と梅林の中に、貝殻や土器の破片を見ることが出来ます。ここが「上貝塚貝塚」です。南北約150m、東西約10mと推定される馬蹄形の貝塚です。

初めに捨てられたとみられる南側からはマガキなど海産の貝類が多く

ヤマトシジミから成っています。動物の骨はシカ、イノシシ、ヘビ。魚類ではニシン、サヨリ、タイなどが出土しました。縄文後期、上新宿や上貝塚は、人々にとって住みやすい環境であったことが分かります。